

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府河内長野市立美加の台小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒586-0044

大阪府河内長野市美加の台3丁目25番1号

E-mail mikasho_kotyo@kawachinagano.ed.jp

Website http://mikanodai.kir.jp/shogakko/

児童生徒数 男子 175名 女子 144名 合計 319名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

平成29年度も引き続き、「国際理解」を中心としたプログラムに取り組んだ。海外交流校との語学協働学習や JICA 遠隔授業など数多く行うことができた。その意義について、難しい解説はできない。ただ交流授業を通し、海外に多くの友を持つことが大事だと考えている。そこから同じ地球で暮らす仲間として、互いに尊重し合う心が育つ。その心が、結果的にESDへと繋がる。そんな思いで、地道に実践を積み重ねる努力をしている。また本校だけでなく、校区の中学校とも連携し、小中で世界との交流実践にも取り組んでいる。昨年11月18日に行われた「美加の台学園祭」では「世界の福祉」をテーマに、海外の識者からの遠隔授業を実施した。

また、JICA 遠隔授業のプログラムとしては、アフリカのエジプトなど4カ国の現状を、青年海外協力隊員の方から教えていただいた。また12月には、恒例の国際音楽交流会を6カ国で行った。

① 「国際理解」に係わる活動(語学協働学習)

このプログラムは、日豪両国の外国語学習のための協働学習として10年前からスタートした。テレビ会議を利用し、互いに日本語タイム(日本語だけを利用してコミュニケーションを行う)と英語タイム(英語だけで会話を行う)を約10分ずつ行い、日ごろの外国語学習の成果を確かめ合う。

今年、この語学協働学習をオーストラリアだけでなくネパールの学校とも複数回行った。ネパールの学校との語学協働学習は、すべての時間を英語だけの会話時間にすることができる利点がある。

No	月 日 曜	交 流 校 名	交流校学年	本校児童
1	6月16日(金)	ネパール ゼナセワ校	6年生	4年1組
2	6月16日(金)	ネパール ゼナセワ校	6年生	4年2組
3	6月30日(金)	ネパール ゼナセワ校	6年生	パソコンクラブ
4	7月7日(金)	ネパール ゼナセワ校	6年生	パソコンクラブ
5	11月13日(月)	豪シンダルサウス校	4年生	5年2組
6	11月15日(水)	豪シンダルサウス校	4年生	3年1組
7	11月15日(水)	豪シンダルサウス校	4年生	3年2組
8	11月27日(月)	豪セントポール校	3年生	5年1組

② 国際理解に係わる学習(世界の福祉)

平成29年11月18日の土曜日参観を利用して、校区の中学校と連携し「美加の台学園祭」が行われた。その学園祭のプログラムの一つとしてオーストラリアやペルー、フィンランドなどと繋いだ遠隔授業を行った。授業のテーマは「世界の福祉」についてである。遠隔授業でつないだ各国からは、それぞれの国の「福祉」についての実情を教えていただいた。

福祉の充実したフィンランドやオーストラリア、まったくそうでないアフリカなどの状況を聞かせていただき、世界の生活環境について学ぶことができた。

No	月 日 曜	遠隔授業国	講師名	
1	11月18日(土)	ペルー	JICA 青年海外協力隊員	辻埜 太一 先生
2	11月18日(土)	ザンビア	JICA 青年海外協力隊員	鈴木 広樹 先生
3	11月18日(土)	マラウイ	JICA 青年海外協力隊員	樋口 亜美 氏
4	11月18日(土)	オーストラリア	豪交流校日本語教師	田鎖 慎哉 先生
5	11月18日(土)	フィンランド	フィンランド交流支援者	寺尾 遥 氏

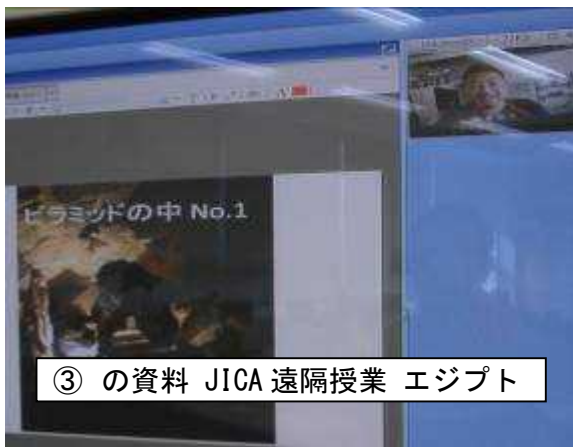
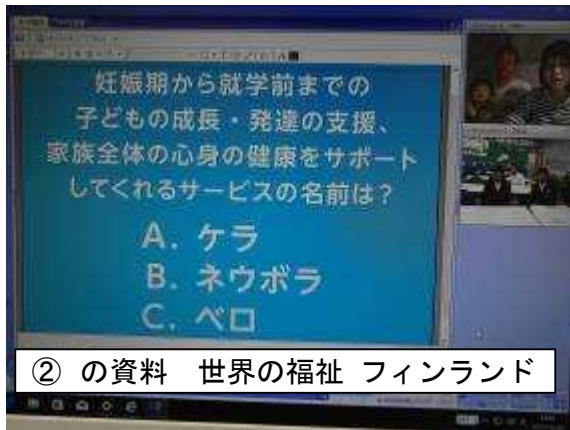
③ 国際理解に係わる学習(JICA 遠隔授業)

今年も、JICA の青年海外協力隊員の方からの遠隔授業を実施した。直接海外からの遠隔授業や、JICA 関西の事務所からの遠隔授業などを行った。また出前授業として、青年海外協力隊の経験者に来校いただき、直接お話を聞く機会にも恵まれた。

No	月 日 曜	学習国	講師名	参加学年
1	6月23日(金)	エジプトから	協力隊 寺谷彰浩先生	パソコンクラブ
2	10月30日(木)	ザンビアから	協力隊 鈴木広樹先生	2年生
3	10月30日(木)	グアテマラから	協力隊 佐藤準先生	2年生
4	2月16日(金)	モロッコ出前	協力隊 札幌計江先生	パソコンクラブ

④ 国際理解に係わる学習(国際音楽交流授業)

本校では、11年前より毎年12月に、イギリスの交流校との音楽交流会(クリスマスコンサート)を行ってきた。年々参加国が増え、今年度は6か国から8校が参加して盛大に行われた。とても楽しいプログラムである。各国の音楽演奏の後、参加国、全員で「We wish a Merry Christmas」を歌うのが恒例になっている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(苦しい生活の中で逞しく生きる開発途上の子ども達から生きる力を学ぶ)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

河内長野市立教育メディアが管理しているテレビ会議システム(V2カンファレンス)を利用している。またプログラムも紹介していただいている。

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度) ※チェック事項1-2, 1-3に対応

特に、意識して取り組めていない。ただ、きちんとした指導計画ができて、あまり意味がない。なぜなら本校の取り組みは、すべて相手のあるプログラムである。海外の学校との交流授業や、JICA青年海外協力隊員からの遠隔授業など、年度当初に、こちらの勝手な都合で計画できるものではない。また逆に、年間指導計画などに強く縛られてしまえば、動きが取れなくなってしまう。

いつも海外からの情報を意識して、学ぶ姿勢を持ち続ける。交流チャンスがあれば、できる限り柔軟に対応する。世界中の子ども達との交流実践を、積み重ねる努力こそが大切だと考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

日本の公立学校は、絶えず人の入れ代わる組織である。管理職が代わり、教員が代われれば、学校組織の取り組み内容は、大きく変わってしまう。そのため、海外の学校との姉妹校などの約束は、公立学校の場合、あまり意味がない。若い初任者や熱意のある先生方に、海外の教育に目を向けてもらい、日本の教育の良いところと悪いところを、客観的に認識していただく。その上で、海外の学校と積極的に交流実践に取り組んでもらう。その中で、海外の先生方との確かな人脈を築くことができれば、転勤先でも交流は継続できる。そのように考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

特に、意識して取り組めていない。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

今のところ、十分に取り組めていない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

本校の敷地内に併設されている河内長野市立教育メディアセンターとの連携により、交流プログラムの調整をしている。またJICA関係者との連携により、遠隔授業や出前授業を計画実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項2-4に対応

できれば交流をしたいと思う。しかし、なかなか時間が取れずに、他のユネスコスクールとの交流はできていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

海外の学校との交流を通して、異文化理解や外国語を使うことへの抵抗感が少なくなり、意欲的に会話ができるようになった。開発途上の国で、暮らす子ども達との交流を通して、自分たちの生活がどれ程、恵まれているか認識できるようになった。そのことから、自身の生活の中で、わがままを反省できる心が芽生えている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度も、引き続き地道に実践を続けたいと考えている。現在、決まっているプログラムは、6月9日(土)土曜参観の折に、JICAの講演会を予定している。その中で、海外の青年協力隊員と繋いだ遠隔授業も計画している。また、語学協働学習もオーストラリアを中心に、複数の国と10回程度を予定している。JICA遠隔授業もパソコンクラブ等で数回予定している。恒例の国際音楽交流会も12月に計画している。

ただし、すべて相手のあるプログラムなので、日時などの詳細は未定である。それぞれ実施の2か月前ぐらいに、調整を行う予定である。